

女性研究者の活動支援事業

岩手大に最高評価

岩手大(岩淵明学長)は文部科学省の採択で2013~15年度に実施した女性研究者研究活動支援事業(拠点型)に関して、最高の「S評価」を受けた。実施機関が中心となって女性支援の取り組みを進め、成果を連携機関に普及させる「拠点型」対象の全国9大学で唯一の最高評価だった。盛岡市の同大で2日開いたいわて女性研究者支援ネ

ットワーク会議で報告した。地域特性を踏まえた支援のネットワークを構築したり、産前産後休暇取得支援制度を新設するなど評価された。

同事業は県立大などの高等教育機関や県内の研究機関と連携。「いわての復興に貢献する女性研究者支援」をテーマに、研究力向上セミナーや男女共同参画に向けたシンポジウムを開催するなどした。結果、岩手大や連携機関の女性研究者比率が向上し、上位職登用が進んだ。

拠点型のほか、実施機関が単独で支援体制を整える「一般型」、複数機関が共同で取り組む「連携型」などがある。

文科省評価で最高位S

岩手大学 女性研究者活動支援事業

岩手大学(岩淵明学長)が2013年度から15年度まで取り組んだ「文部科学省女性研究者研究活動支援事業

(拠点型)の事後評価で、最高位の「S(所期の計画を越えた取り組みが行われている)」を獲得した。女性研究者の採用・在籍比率、上位職登用といった目標達成度や取り組みの成果など5分野を審査し、総合評価を示すもので、同時期に「拠点型」に取り組んだ9大学の中では唯一のS評価だった。

同大は「いわての復興に貢献する女性研究者支援」をテーマに、男女共同参画推進室が普及対象機関(県立大、岩手医大、一関工専、八戸工専と県工業技術センターなど県内5研究機関)と連携体制を構築。女性研究者の研究活動や採用定着の向上を目指し、セミナーの開催や女性研究者ネットワークの構築促

副学長の菅原悦子男女共同参画推進室長は「さらに関係機関の連携を深め、女性研究者が活躍できる環境整備に取り組みでいきたい」と述べた。

同大は女性研究者の活躍を推進する文科省の補助事業採択を受け、昨年11月、弘前大、一関高専など本県と青森県の5研究機関・企業と「北東北ダイバーシティ研究環境実現推進会議」も設立した。



岩手大で開かれた、いわて女性研究者支援ネットワーク会議

岩手大に最高評価

JST 女性研究者支援の実績で

岩手大(岩淵明学長)

は、2013～15年度に実施した「女性研究者研究活動支援事業(拠点型)」で、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)から、最高評価の総合S評価を受けた。県内の大学や研究機関などと連携し、女性研究者の採用比率や在籍比率の向上、上位職登用などの目標を達成したことが高く評価された。

同事業は「いわての復興に貢献する女性研究者支援」をテーマに、同大

の男女共同参画推進室が連携体制を構築して女性研究者の活動促進や採用定着を目指すのが狙い。県立大、岩手医科大、一関高専、八戸高専のほか、県工業技術センターをはじめとする研究機関と連携し、▽研究力向上支援セミナーなどの開催▽女性研究者ネットワークの構築促進▽ワーク・ライフ・バランスやキャリアパス構築の相談・支援などの環境整備▽シンポジウムや管理職セミナーを通じた意識改革▽学

内における研究支援者の配置などに取り組んだ。JSTでは取り組みの成果として、岩手大が学長ポスト枠を活用した女性限定公募の運用で、上位職14人を含む女性研究者18人を採用し、理工学部初の女性教授、機関初の女性理事の誕生につなげたことを挙げている。連携機関全体の女性研究者の採用比率、在籍比率が向上したこともまたえ、SとBの3段階で最高のS評価を与えた。

同大では事業終了後も継続して取り組みを進めるため、連携機関と共に

「いわて女性研究者支援ネットワーク」を16年度に発足。男女共同参画推進室長の菅原悦子理事・副学長は「多くの協力があり、素晴らしい評価を頂いた。この結果に恥じぬよう、ネットワークを継続して女性研究者をサポートしていきたい」と話している。